

2024年度 第17回全日本ユース(U16)水球競技選手権大会【桃太郎カップ】【戦評】

会場：児島マリンプール

【2024/12/26】

女子準々決勝3

千葉県選抜 16

4	—	4
1	—	3
5	—	0
6	—	4

11 神奈川県選抜

PSO

審判： 宇田川 佑里子
河川 太郎

この試合のプレー集計

千葉県選抜	33	SH数	32	神奈川県選抜
	14	速攻数	5	
	11	ST・SB	7	
	26	SH・P誘発アシスト	16	
	35%	GK阻止率	30%	
9	EX反則数	10		

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

関東勢でしのぎを削る両チーム。攻守にバランスのとれた神奈川、攻撃力勝負の千葉という戦いが予想され、実力拮抗しているチーム同士なので、シュート決定力が勝負の行方を左右する。

1P

開始早々、センターボールからセンター位置取りした千葉③傍嶋にボールが渡り、千葉が先制。この場面、神奈川がもう少しDF注意を払っていれば防げた可能性があった。しかし神奈川は千葉の攻撃ミス突いて、②佐藤③神原が連続得点して逆転。千葉も③傍嶋を軸に加点。双方、譲らない展開で第1ピリオド終了(千葉4-4神奈川)。

2P

序盤は一進一退の攻防が続いたが、神奈川のシュートミス突いて千葉が速攻。④寺田がノーマークSHを決めて千葉がリードを奪った。しかし神奈川はDFシステムが機能し始め、千葉のシュートミスからの速攻を繰り返し、ピリオド後半に⑤松原②佐藤などで3連続得点。神奈川ペースで前半を折り返す展開となった(千葉5-7神奈川)。このピリオド、神奈川はパスやボールキープでミスがなくなり、マイボールを確実にシュートにまでつなげる展開となったことが優勢に試合を支配できた要因であった。それだけ、攻撃面でのバランスが第1ピリオドから改善され、後半が楽しみな状況となった。

3P

ピリオド序盤は第2ピリオド同様に一進一退の攻防が続いたが、第2ピリオドと違って神奈川にパスミスやパスをカットされる場面が続き、神奈川の攻撃が前線にまで届かなくなってきた。それだけ千葉側がDFでプレッシャーをかける状況が顕著となったわけだが、神奈川側の泳ぎが止まってしまったこともパスが通らなくなった要因。千葉はピリオド中盤からプレッシャーで神奈川ボールを奪ってから速攻。エース③傍嶋や⑩青山などで3連続得点して逆転。その後も、ピリオド終盤に右サイドを突いて④寺田、⑥北島が加点し、千葉10-7神奈川と一気に引き離して最終ピリオドへ。神奈川は攻撃中にボールを失う、奪われるプレーが8回。これでは攻撃が機能するはずもなく、ゲームの流れを失ってしまった。

4P

追い詰められた神奈川はセンターボールを奪った⑫廣谷から懸命に右サイドを突破した④近藤にボールが渡って1点を返して2点差。しかし千葉は直後に④寺田が決めて再び3点差に。ここのDFを神奈川が整備していればと悔やまれるが、その後、やや焦りが出てきた神奈川。攻撃パターンは優れているが、最後のシュートが枠外。そこを千葉に突かれて③傍嶋が連続得点。ピリオド中盤で千葉が5点差に広げ、この後は安全圏の戦いとなった。

最終的には千葉16-11神奈川ということで、千葉が準決勝進出を決めたが、神奈川としては第3ピリオドでやや泳ぎが止まってしまい、後手に回ったのが勝負の分かれ目となってしまった。逆に言えば、千葉が勝負どころをわきまえて、DFからの攻撃という水球セオリーに徹した形が功を奏した。